

Symbio Community Forum

News Letter
Vol.4 2008

吉川榮和 会長

様々な「共生」への発展の年を期待して

シンビオ社会研究会の会員情報

活動報告

—21世紀の共生型原子カシステムに関する国際会議（ISSNP）

および日韓学生サマースクール報告

—インタラクティブ・ワークショップ

「明日の人・環境・社会のための共生インタフェース」報告

—カフェサロン

「国際文化比較論—文化・科学・技術と教育の関わり—」報告

様々な「共生」への発展の年を期待して



二年前のシンビオ社会研究会のNPO法人化に際し大きな記念事業とした、「二十一世紀の共生型原子力システムに関する国際会議（ISSC）」の開催は、第一期役員の方々の国際会議開催地の各機関の方々などのご尽力、ご協力によって成功裏に終了できました。同会議に中国・黒龍江省から参加のハルビン工程大学核科学・工学科の張 志俊 院長の申し出によって、第二回目のISSC2008が本年九月上旬、ハルビン工程大学で開催されることになり、筆者もその開催に国際コーディネータとして協力しています。

シンビオ発足の記念事業として単発の国際会議と考えていたところ、思いがけなく今後も継続されるようになったことは大きな喜びです。原子力には、単に機械と人間との共生だけでなく、原子力事業の地域との共生、原子力を介して東アジアと欧米各国の教育研究者、技術者間の関係作りと、新たな共生へ発展があることに気付かされました。

一方、平成十九年度実施の社会啓発事業では、ヒューマンインタフェースの若手研究者の新たな研究の試みを一般市民や大学生、高校生に対話紹介するインタラクティブセッションを初めて行いました。また、国内在住の欧米文化人を招待し、本会メンバーや学生さんの企画で、「日本の中の外国人、外国の中の日本人」として日頃の生活体験から、良いと思ったこと、これはどうかと思ったことを英語で語ってもらい、フロアからも話しかけるといふインタナショナルカフェサロンも行いました。身近な国際文化比較でしたが、参加した若い高校生や大学生さんには英語教育という面でも良い機会と好評でした。

この二年間の第一期活動で、非営利活動法人としての一通りの官庁・税務手続きを経験しました。NPOには意外に面倒な事務作業が伴うな、というのが偽らぬ実感です。第二期の活動に入り、これまでの国際会議開催、若手研究者や一般市民、学生さんとの社会啓発的行事を継続発展するとともに、新たに日中環境・省エネフォーラムの開催を計画しています。役員、会員の方々には日頃それぞれの持ち場、お仕事で超多忙とは思いますが、ご自分の仕事にシンビオの場が活かされたら良いなどのお気持ちで活動にご参加下さいますようお願いしております。本年もどうかよろしくお願いいたします。

役員リスト

役職名	氏名	役割
会長	吉川 榮和	総括・総務
副会長	杉万 俊夫	事業統括
理事	若林 靖永	社会啓発事業
理事	下田 宏	学術事業
理事	長松 隆	社会啓発事業
理事	石井 裕剛	学術事業
理事	伊藤 京子	社会啓発事業
理事	作田 博	学術事業
理事	松本 英治	国際連携事業
理事	丹羽 雄二	学術事業
理事	久郷 明秀	社会啓発事業
理事	西川 佳秀	社会啓発事業
理事	五福 明夫	国際連携事業
理事	山本 倫也	学術事業
理事	手塚 哲央	国際連携事業
理事	福井 卓雄	国際連携事業
理事	千種 直樹	社会啓発事業
理事	吉田 民也	社会啓発事業
理事	中村 洋之	国際連携事業
監事	永里 善彦	
監事	新田 隆司	

会員の種類

シンビオ社会研究会の会員には次の4種類があります。

1. 正会員 2. 登録会員 3. 賛助会員 4. 海外連絡会員

海外連絡会員は、理事会の推薦で会長が海外の個人に委嘱しています。現在次の3名の方が海外連絡会員です。

李 徳衝 さん（大連孚源投資顧問有限公司）

周 楊平 さん（北京清華大学核エネルギー・新エネルギー設計研究院）

楊 明 さん（ハルビン工程大学核科学・工学科）

各会員の入会金、年会費とサービス内容は、下表の通りです。なお、海外連絡会員は、入会金、年会費は不要です。また、2007年度より次のようにしています。

●本会の行う活動行事等にご参加の方には、ご本人の同意を得て登録会員になってもらうようにしております（入会金、年会費不要）。登録会員から正会員への変更には入会金は不要です。

●正会員で2年間正会員費を滞納されると自動的に登録会員に変更します。

入会の方法

シンビオ社会研究会のホームページをご覧の上、ホームページより会員入会申込書をダウンロードして、左記のいずれかの方法で申込書をご送付下さい。

●郵送の場合

〒606-8306 京都市左京区吉田中阿達町37-1 マ・メゾン 102号室

シンビオ社会研究会 事務局 あて

●電子メール添付の場合

シンビオ社会研究会 事務局メール hidekazuyoshikawa@nike.eonet.ne.jp

	正会員	登録会員	賛助会員
入会金	1000円	なし	なし
年会費	2000円	なし	50000円/1口
ニュースレター	郵送いたします	-	郵送いたします
講演会のメール案内	あり	あり	あり
協賛行事のメール案内	あり	あり	あり
セミナーの割引	あり	なし	あり
見学会の割引	あり	なし	あり
ホームページから活動報告の入手	あり	なし	あり
総会での議決権、役員選挙権、役員被選挙権	あり	なし	なし
ホームページでの賛助会員の明記及びリンク	-	-	あり
シンビオの各種プロジェクト活動の案内	あり	なし	あり。口数に応じた人数に参加いただけます。

二十一世紀の共生型原子カシシステムに関する国際会議 (ISSNP)

および日韓学生サマースクール報告

吉川 榮和・五福 明夫・福井 卓雄・石井 裕剛 記

福井県敦賀市の若狭湾エネルギー研究センターを会場に、平成19年7月9日(月)から11日(水)の3日間、二つの国際交流行事を行いました。ISSNPは次の3つを目的として今回初めて開催しました。

① 21世紀の共生型原子カシシステムについてとくに3分野(制御とコミュニケーションのための計測・監視処理技術、システムシミュレーション技術、ヒューマンインタフェース技術、技術の社会、環境との共生のありかた)の新たなアイデアの提起と研究情報の交換を行う。

② 東アジアの若手研究者のネットワーク構築に資する。

③ 若狭湾地域のエネルギー研究教育の拠点形成に資する。
会議への参加者は、合計117名で、国外からは43名(韓国、中国、台湾、米国、スエーデン、デンマーク、ノルウェイ)、国内は74名でした。初日のプレナリセッションには会議参加者17名に、地域の企業、大学、一般市民の参加者約90名を加えて、約200名の参加者がありました。



セミナー修了式 (もんじゅシミュレーター)

テクニカルセッションでは、3つのキーノート講演と、3つのパラレルセッションで応募論文の発表がありました。発表された全応募論文数は52件で内訳は日本27、中国11、韓国7、台湾3、ノルウェイ1、米国1、スエーデン1、デンマーク1でした。

ISSNPの開催には、関西電力株式会社、福井県、敦賀市、若狭湾エネルギー研究センター、日本原子力研究開発機構、日本原子力学会、関西エネルギーリサイクル研究振興財団、福井観光コンベンション協会に様々な形の後援を得るとともに、ヒューマンインタフェース学会、日本保全学会、計測自動制御学会関西支部、日本人間工学会関西支部の協賛をいただきました。

ISSNPに並行して開催の日韓サマースクールは、日韓学生・若手研究者だけでなく、中国からの参加者も含めて日韓中3カ国の学生・若手研究者によるサマースクールとなりました。参加学生・若手研究者数は21名で、その内訳は、中国7名、韓国8名、日本6名でした。なお、このプログラムの実施には日本原子力学会日韓学生交流事業連絡会より支援をいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。



プレナリセッション会場風景

カフェサロン「国際文化比較論

—文化・科学・技術と教育の関わり—報告

久郷 明秀 記

京大人間・環境学研究科博士課程1年の竹内みちるさんの司会、杉万先生の司会協力で、基調講演とパネルディスカッションが行われた。講演、パネルディスカッションともに、英語で発表され、講演では司会者の竹内さんが講演者の英文の発表スライドを和訳解説し、パネルでは杉万先生がパネリストや聴衆の意見を適宜通訳された。

基調講演講師の米国人ダルスキー博士は、現在、京大客員講師である。同氏は米国と日本で比較文化研究の調査成果の一端を分かりやすく紹介された。日本でもグローバルゼーションが東京や大阪から地方に波及し、地方の若い世代にも米国や日本の大都会と同様に職場よりも家族や友人を大切にする意識、個性を大事にするなど個人主義的になっている。日米の親密な対人関係の学生間のコミュニケーションの研究成果では、自分を大切にする気持ちの変化がその時のその人の置かれた環境や文化に依存すること、自意識が相手（他者）と重なり合うこと、相互に高く評価することによって自尊心がますます高まっていくことは共通であるが、日本学生では自尊心は相手に誉めてもらうことで高まるのに対し、米国人学生は自尊心が高まると自分で自分を誉めて誇示するように、やはり日米で態度は異なることが報告された。

コーヒープレークをはさんで始まった。パネルディスカッションでは先ずノルウェイのルンド博士がノルウェイと日本での長い生活体験からの感想、続いてフランスのツェルニー夫人が日本での生活体験、そして最後に福井大学の川本博士が、英国での研修体験を発表された。とくにルンド博士、ツェルニー夫人から、はっきりものを言わず、暗黙で場を読むことに重きをおく日本人のコミュニケーション傾向に対し、はっきり意思表示をすることを重要と考える欧州の考え方を対比して、その辺に違和感を持つことを強調された。

その後の会場フロアとパネリストの対話応酬は大変多岐にわたって興味深いものだったが、詳細はシンビオホームページに再現されていますのでご覧ください。
http://sym-bio.jpn.org/file/file_20071110160613.pdf



パネル風景



講演風景

2007年度の主な活動実績

2007年

- 5月9日 第1回理事会・通常総会・シンビオ講演会
6月23日 第1回研究談話会
7月9日 21世紀の共生型原子力システムに関する国際会議 (ISSNP)・KNS-AESJ学生サマースクール
～11日 (於：若狭湾エネルギー研究センター)
9月8日 第2回研究談話会
(インタラクティブ・ワークショップ「明日の人・環境・社会のための共生インタフェース」)
11月2日 第2回理事会・シンビオ講演会 (カフェサロン「国際文化比較論—文化・科学・技術と教育の関わり」)
12月6日 公開ワークショップ「学習する組織による原子力組織の安全文化醸成」

2008年

- 1月25日 第3回理事会・シンビオ技術交流会
3月7日 第4回理事会・「エネルギー・環境問題の国際動向を考える」講演会

2008年度の主な活動予定

2008年

- 5月9日 第1回理事会・通常総会・大連フォーラム2008事前説明会
9月8日 ISSNP2008 (中国・ハルビン工程大学)
～10日
9月18日 環境・省エネ日中共同フォーラム
～21日 (中国・大連理工大学国際会議中心)
10月24日 第2回理事会・講演会 (カフェサロン)
11月 研究談話会 (インタラクティブ・セッション)
(日時・場所 未定)
12月12日 公開ワークショップ「学習する組織による原子力組織の安全文化醸成」 (キャンパスプラザ京都)

2009年

- 1月23日 第3回理事会・シンビオ技術交流会
3月6日 第4回理事会・「エネルギー・環境問題の国際動向を考える」講演会

発行 シンビオ社会研究会

〒606-8306

京都市左京区吉田中阿達町37-1

マ・メゾン102号室

TEL/FAX: 075-204-1559

E-mail: hidekazuyoshikawa@nike.eonet.ne.jp

URL: <http://sym-bio.jpn.org/>